

アイヌ民族がいらない?じゃあ、日本民族だっていないのぞ。

<コラム>

100%アイヌ民族の血が流れている人がどれだけいるのか、アイヌ民族なんて、いまはもういない、せいぜいアイヌ系日本人が良いところですが、とツイッターに書き込んだ札幌市議がいらっしゃった。

古代、日本列島に中国や朝鮮から先進文化とともに人もどっと流れ込んできたなかで形成された日本に、そもそも100%の日本民族なんているの?

《日本人とは、日本人とは何かという問を、頻りに発して、倦むことのない国民である》とおっしゃったのは文学者の故加藤周一さん。

その歴史は、江戸期の本居宣長「国学」に始まり、殊に明治以後に著しい。

日本文化などと云ったって、それは「雑種文化」である。加藤さんは、こうも指摘した〜「国学」は、外来の仏教および儒教の圧倒的影響に対する反発として起こったもので、日本文化の雑種的性格は今に始まったことではない。雑種文化は、いつの時代にも常に日本の現実だった。その現実から外来の要素を排除して、純粋に日本的なものの概念を求める願望の最初の大規模な表現が「国学」だった。

歴代の政治家などから「日本民族単一論」は、今日まで繰り返し放言され、そのつど批判されてきた。だって、単一じゃないんだもの。政府は、国際的眼差しもあって、2008年アイヌ民族を先住民族と認めた。日本国民は単一民族で構成されていないのです。そこで札幌市議のような発言が出てくるのだろうけれど、その主眼はむしろ、アイヌ民族だと自ら名乗る人の目的を「行政からの便益を獲得すること」だと非難するところにある。それは、「在日」の人たちが既得権益(?)を得ていると非難している方々と軌を一にしている。

純粋なアリアン人を、と云ったヒットラーのナチス、大和魂だとか日本民族だとか声高に叫んだ戦前戦中の日本軍部。他を排除する「純粋さ」などマヤカシであり、ロクなものではない。

(清水 三喜雄)

秋思 (しゅうし) ③

わが秋思水わたりきし一羽鳩 (中村草田男)



劉連仁生還記念碑前で、「旅システム」ツアー一行が記念写真を撮る

劉連仁記念碑ツアー、
碑を伝える会と交流

劉連仁生還記念碑 (当別町若葉)を訪れる人が年々増えてきている。個人で、あるいはグループや団体で同碑を訪れ、改めて戦争と平和を考へるきっかけとなつていくように、中国の貧しい農村にた劉連仁さん(一九二〇年三月二〇日)が、日本による強制連行で沼田(札幌市)の企業旅行会社「旅システム」(札幌市)の企画で、八月二十一日(日)に劉連仁生還記念碑を訪れた。劉さんは当別山中で偶然「発見」され保護される。同碑は、当別町民らの草の根運動のなかで二〇〇二年九月建立された。

画する劉連仁記念碑を巡るツアー一行二十五名が当別町を訪れた。盲目の方々五名、若々しい青年弁護士四名らを含む一行は、まず同碑を訪れ献花した。「同碑を伝える会」会長三上勝夫さんが、同碑建立の経緯などを話して歓迎した。盲目の方々は、彫刻家丸山隆の遺作でもある同碑をじかに触り、形・大きさなどを確かめながら劉さんへ思いをはせる。その後、一行は若葉会館へ移動して、「伝える会」のメンバーとの交流昼食会へ。

劉さん第一発見者だった袴田清治さんは亡くなり、当時を知る唯一の証人である木屋路喜一郎さん(同会名誉顧問)が、劉さん救出時の生々し証言をしてくれた。三上会長や大澤勉会長代行らが、生前の劉さんとの交流や同



盲目の参加者は、記念碑を手で触って感じていた

(二面につづく)

当別町
週間行事
予定

七日(日) 収穫祭 (東裏体験農場 午前) 前(一〇時) 当別町防災セミナー (ふれあい倉庫 午後一時半)

八日(月) 町長の開会を以て意見(応接室 午前八時半) 幸齢社会人材育成・ものづくり講習会「バスターアート」(学習交流センター 午前一〇時) 初心者テニススクール(スウェーデンヒルス 午前二〇時半) 食と観光によるまちづくり(ふれあい倉庫 午後六時)

九日(火) 議会運営委員会(役場 午前九時) 議員協議会(役場 午前九時半) 第四回定例会(役場 午前一〇時) 産業厚生常任委員会(役場 午後一時) スポーツ吹き矢(白樺コミセン 午前一〇時) かすみ草のつどい(西当別コミセン 午前一〇時半) 当別・新篠津小中生創意工夫展(ふれあい倉庫 十一日まで 午後三時~午後五時)

十日(水) 総務文教常任委員会(役場 午前一〇時) 親子エンジョイパーク(総合体育館 午後一時) 当別介護者と共に歩む会・ビデオ上映(ゆとり 午後一時半) 気功教室(西当別コミセン 午後二時) わんぱくスポーツ(白樺コミセン 午後三時半)

十一日(木) 第四回定例会(役場 午前一〇時) 会計決算審査特別委員会(役場 午後一時) チャレンジ・ヨガ(総合体育館 午後七時) 夜間納税相談(役場 一階 午後七時半まで)

十二日(金) 会計決算審査特別委員会(役場 午前十時) バランスボール教室(総合体育館 午前十時) こたぎき大学・歴史講座(白樺コミセン 午前十時) 十三日(土) 阿蘇岩ウォーキング(総合体育館 午前九時半) 樹下の気功(獅子内フレンドファーム 午前十一時) 青少年スポーツの時間・西当別コミセン 無料開放(午前中)



当別新聞販売センター
ASA石狩当別
毎日新聞販売所
〒061-0227
石狩郡当別町園生711
電話
0133-23-2066
FAX
0133-23-2099

<http://www.htb.co.jp>
(ASA on HTB)
このホームページでは、
当別新聞が毎週更新
されていてカラーで見
ることが出来ます。

(面からつづく)

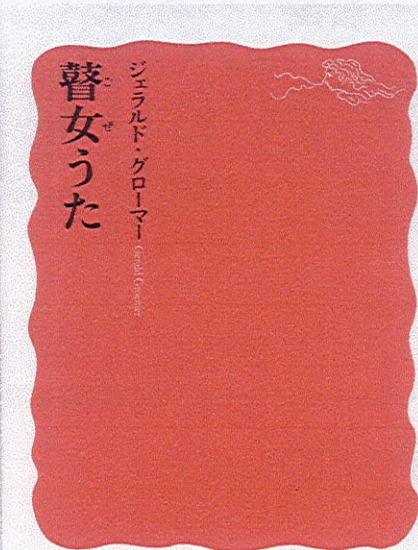
劉さんは、劉さん当別訪問時(生前劉さんは三度当別を訪れ町民と交流している)の話をされた。その中で、劉さんが「俺の手につけて、これは殺菌作用もあって隠れていた穴にもひきつめまして話されたという。さらに、山の中に同行しようとする劉さんは硬くなって絶対に行こうとしなかったという。『深山恐怖症』という症状だったと後に知りましたと大澤さんは話された。

劉さんは二〇〇〇年に八七歳で逝去するが、その二年前(一九九八年)の診断書がある。「深山恐怖症」というのはその診断書に書かれていた。木々が多くある林や森に入るとパニック症状を起こすという症状である。また、その診断書には、下痢が治らず、悪夢にも悩まされている、と書かれていた。

戦争というものは、多くの人を殺すだけではない、生き残った人々も苦しめる。個人の肉体と心のかたに食い込み、生涯その人を小突きまわすのである。戦争の惨たらしさは、ここにもある。

<本の紹介>

ジェラルド・グローマー
『 瞽女うた 』
(岩波新書 2014年)



ジェラルド・グローマー
『 瞽女うた 』
岩波新書 1485

劉さんは二〇〇〇年に八七歳で逝去するが、その二年前(一九九八年)の診断書がある。「深山恐怖症」というのはその診断書に書かれていた。木々が多くある林や森に入るとパニック症状を起こすという症状である。また、その診断書には、下痢が治らず、悪夢にも悩まされている、と書かれていた。

ジェラルド・グローマー(米国・オーストラリア国籍 一九五七年生)は現在、山梨大学大学院教授、日本芸能史の研究者であり、音楽研究者でもある。

と記している。本書の日本語も素晴らしいが、「瞽女」の在り方に、まさにこの方法論が貫かれていて思わず唖ってしまった。凄いな、これは。

一九八五年初来日

時代人の日記・地方史など膨大な史料を精緻に読み込んである凄さに圧倒される。

の語は女性をその視覚障害によって特徴づけ、その背後に中世的な宿命観と、それが引き起こす受動的な態度が潜んでいる。一方、「こぜ」は女性の社会的立場、役割、職分などを重

上勉の小説『はなれ瞽女おりん』やその映画化である篠田正浩監督の同名作品(岩下志麻主演)、さらには斎藤寅次郎の絵などの印象が強く、そのイメージの範疇にいたが、本書を読むと、それは越後の瞽女のイメージであって、瞽女全体の一部であることが分かった。

著者には既に、二〇〇〇年来的研究成果である『瞽女と瞽女唄の研究』(二〇〇七年)という大冊があるが、本書は新書版ながら、その後の新資料も加えて瞽女の全貌に迫る。瞽女自ら語ったものは断片しかなく、無数の地方文書・庄屋など同

性(弟子入りして等の演奏を習って等曲の師匠になり、地方の瞽女は、三味線や太鼓を回す門付け芸人となる。つまり、

都会の瞽女は、男性に弟子入りして等の演奏を習って等曲の師匠になり、地方の瞽女は、三味線や太鼓を回す門付け芸人となる。つまり、

音楽研究家としての著者の独自の視点、瞽女唄とは何か、その音楽的分析にもある。「段もの」とか「口説き」と呼ばれる長いストーリー性のある唄(長時間にも及ぶ)や短い唄、流行歌などがあり、時と場所と客の求めに応じて臨機応変に唄う。瞽女に正調はない。それは瞽女が伝えるのはプロット(筋)だからだ。そのプロットは、代々受け継がれた楽器を丁寧に扱い自分たち独自の唄を育んだ職能集団の口頭伝承の基本にあるものだった。しかし他方で、

視し、より能動的な態度を前提としていた。瞽女文化の黄金時代は近世中期から明治である。瞽女は、青森から鹿児島まで、畿内以外のほぼ全国に根を下ろしていた。蝦夷地(北海道)にもいたが、本書を読むと、それは越後の瞽女のイメージであって、瞽女全体の一部であることが分かった。

近世、各藩の対応は、三味線や等を弾き、瞽女と呼ばれるようになった。節用集(一九五〇年)には、「御前(ごぜん)」は盲女と定義されている。ポルトガル宣教師らによる『日葡辞書』(一六〇四年)にも、gōnyō(こぜ)が盲女と解説されている。

その上にたつて改めて著者の鋭い問題提起が「終章 終わらない終わり」でなされている。ここにきて初めて、著者の瞽女研究の熱いモチベーションが分かった。それは、瞽女唄とは何か、その音楽的分析にもある。「段もの」とか「口説き」と呼ばれる長いストーリー性のある唄(長時間にも及ぶ)や短い唄、流行歌などがあり、時と場所と客の求めに応じて臨機応変に唄う。瞽女に正調はない。それは瞽女が伝えるのはプロット(筋)だからだ。そのプロットは、代々受け継がれた楽器を丁寧に扱い自分たち独自の唄を育んだ職能集団の口頭伝承の基本にあるものだった。しかし他方で、

驚くべき問いかけをする。『我々が今後検討すべきは、瞽女唄に残された面白さと楽しさをどのように「搾り取るか」でも、それをどのように今の社会状況の中で「生かすか、利用すべきか」でもない。そうでは

驚くべき問いかけをする。『我々が今後検討すべきは、瞽女唄に残された面白さと楽しさをどのように「搾り取るか」でも、それをどのように今の社会状況の中で「生かすか、利用すべきか」でもない。そうでは

驚くべき問いかけをする。『我々が今後検討すべきは、瞽女唄に残された面白さと楽しさをどのように「搾り取るか」でも、それをどのように今の社会状況の中で「生かすか、利用すべきか」でもない。そうでは

内科 救急当番医

7日(日)堀
8日(月)堀
9日(火)ス
10日(水)近
11日(木)さ
12日(金)勤
13日(土)堀

<平日夜間>
午後7時～午後9時
<土曜日>
午後2時～午後5時
<日祝祭日>
午前9時～正午
午後2時～午後5時

堀=堀江病院(22-3111)
近=近藤医院(23-2021)
勤=勤医協当別診療所(23-3010)
と=とうべつ内科クリニック
(22-1313)
さ=さわざき医院(25-2055)
ス=スウェーデン通り内科循環器科
クリニック(25-3151)

明治にも唄われていた瞽女唄「千住節」と近代音楽産業の産物である「東京音頭」を比較分析する。三分たらずのモダンな曲の消費と廃棄が繰り返される間に「千住節」のような柔軟な拍感と不規則なフレーズは「難しい」と感じられ時代遅れと見なされていく。しかし、「千住節」は明治までは流行していたわけで、その音楽的・文学的要素が民衆にとって過度に複雑ではなかったという点だ。だから、「千住節」の衰退と「東京音頭」の隆盛の原因を、それのみに説明するのはできない。

なぜ、聴衆の感覚と評価基準が変わったのか。いや、変わったと錯覚させられたのか。著者は、音楽「産業」による商品化に、その真の原因をみている。

これからの社会的営為と生きた文化との間に潜む矛盾を問い直し変えていくことを求めている。真に衝撃的な著作である。(S)

明治にも唄われていた瞽女唄「千住節」と近代音楽産業の産物である「東京音頭」を比較分析する。三分たらずのモダンな曲の消費と廃棄が繰り返される間に「千住節」のような柔軟な拍感と不規則なフレーズは「難しい」と感じられ時代遅れと見なされていく。しかし、「千住節」は明治までは流行していたわけで、その音楽的・文学的要素が民衆にとって過度に複雑ではなかったという点だ。だから、「千住節」の衰退と「東京音頭」の隆盛の原因を、それのみに説明するのはできない。

なぜ、聴衆の感覚と評価基準が変わったのか。いや、変わったと錯覚させられたのか。著者は、音楽「産業」による商品化に、その真の原因をみている。

これからの社会的営為と生きた文化との間に潜む矛盾を問い直し変えていくことを求めている。真に衝撃的な著作である。(S)

驚くべき問いかけをする。『我々が今後検討すべきは、瞽女唄に残された面白さと楽しさをどのように「搾り取るか」でも、それをどのように今の社会状況の中で「生かすか、利用すべきか」でもない。そうでは

驚くべき問いかけをする。『我々が今後検討すべきは、瞽女唄に残された面白さと楽しさをどのように「搾り取るか」でも、それをどのように今の社会状況の中で「生かすか、利用すべきか」でもない。そうでは

驚くべき問いかけをする。『我々が今後検討すべきは、瞽女唄に残された面白さと楽しさをどのように「搾り取るか」でも、それをどのように今の社会状況の中で「生かすか、利用すべきか」でもない。そうでは